



大或は之に勝  
たかりしと  
詔す

三二 一

ヨハネ傳福音書

太初に言あり、言は神と借にあり、言は神ありき。  
 この言は太初に神ととも在り、萬の物これ  
 に由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成  
 りたるはなし。之に生命あり、この生命は人の光お  
 りき。光は暗黒に照る、而して暗黒は之を曉らざり  
 き。神より遣されたる人いでたり、その名をヨハネ  
 といふ。この人は證のため來り、先に就きて證  
 をおし、また凡ての人の彼によりて信せん為あり。又  
 彼は光にあらず、光に就きて證せん為に來り。又

聖書改譯原稿用紙

もろの人を照らす眞のひかりありて、世に  
 きたれり。彼は世にあり、世は彼に由りて成りたる  
 世は彼を知らざりき。かれは己の國にきたりし  
 に、己の民は之を受けざりき。されど之を受けし者  
 即ちその名を信せし者には、神の子とある權をあ  
 へ給へり。斯る人は血脈によらず、肉の欲によらず、  
 人の徳によらず、たい神によりて生れしあり。言は  
 肉体とありて我らの中に宿りたまへり、我らその榮  
 光を見たり、實に父の獨子の榮光にして、恵と眞とにて  
 満てり。ヨハネ被につきて證をおし、呼はりて言ふ

恩恵と眞理

ルカ傳末 291 ヨハネ傳初 294 此間 292 293 ナシ

聖書に思ふ事  
 \*異邦の神の事  
 神はひとり

十六 故<sup>ゆゑ</sup>ふりと、我<sup>われ</sup>が曾<sup>かつ</sup>ていへるは此<sup>こ</sup>の人<sup>ひと</sup>あり。我<sup>われ</sup>より前<sup>まへ</sup>にありし

その充<sup>み</sup>ち満<sup>み</sup>ちたる中<sup>うち</sup>より受<sup>う</sup>けて、恵<sup>めぐみ</sup>に恵<sup>めぐみ</sup>を加<sup>く</sup>へらる。律<sup>おきて</sup>法<sup>は</sup>はそしせによりて

十七 律<sup>おきて</sup>法<sup>は</sup>はそしせによりて受<sup>う</sup>けられ、恵<sup>めぐみ</sup>と真<sup>まこと</sup>とはイエスキリストによりて來<sup>ま</sup>れるあり。未<sup>いま</sup>だ神<sup>かみ</sup>を見<sup>み</sup>し者<sup>もの</sup>

十八 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。

十九 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

二十 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

二十一 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

二十二 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

二十三 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

二十四 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

二十五 予<sup>あな</sup>し、左<sup>ひだり</sup>に父<sup>ちち</sup>の懷<sup>みとこころ</sup>裡<sup>ら</sup>にいます獨<sup>ひとりご</sup>子<sup>ご</sup>の神<sup>かみ</sup>のみ之<sup>これ</sup>を顯<sup>あらは</sup>し給<sup>たま</sup>へり。さてユダヤ人<sup>い</sup>、エルサレム<sup>え</sup>より祭<sup>まつり</sup>司<sup>し</sup>としビ人<sup>び</sup>と

聖書改譯原稿用紙

向

或は「神」  
と云す

云「神」は此の  
人なり

御霊  
鳩

或人

廿七

廿八

廿九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六  
三十七

水にてバポテスマを施す。あんぢらの中に洗うの知

らぬ者ひとり立てり。即ち我が後にまたる者あり。

我はその鞋の紐を解くに足らず。これらの事は、

ヨハネのバポテスマを施するたりしヨハネの事

かひあるべし。明くる日ヨハ

ネ、イエスの己が許したる給ふを見ていふ「視よ、

出まの罪を除く神の羔羊。われ曾て「わが後に來る

人あり、我にまさるべし、我より前にありし故なり」と

我もと彼を知らざりき。然れど彼のイスラエルに顯

れんために、我來りて水にてバポテスマを施すなり。

聖書改譯原稿用紙

ヨハネを証しして言ふ「われ見しに御霊鳩の

いとく天より降りてその上に止れり。我もと彼を

知らざりき。然れど我を遣ひ、水にてバポテスマを施

す者あるといひ給へり。われ之を見てその神の子

たるを證せしむ。われ之を見てその神の子

たるを證せしむ。われ之を見てその神の子

たるを證せしむ。われ之を見てその神の子

たるを證せしむ。われ之を見てその神の子

たるを證せしむ。われ之を見てその神の子

振返

今午の午後四時

冊八

ば、イエス振返りてその徒いきたるを見て言ひ

たまふ「何を求むるか」彼ら「いふ」(釋)「給きていへば師」

冊九

いづこに留りたまふか」イエス言ひ給ふ「きたれ、さ

うば見ん」彼ら往きてその留りたまふ所を見この日

冊十

とにも留れり、時は第十時ころありき。ヨハネより

聞きてイエスに後いし二人のうと一人は、イエスへ

冊一

アロウ兄弟アレゲレあり。この人まづ其の兄弟し

そに「遇」あり「我らメシヤ」(釋)「キリスト」にあへり」と

冊二

言ひて、彼をイエスの許に連れきたり。イエス之

に目を注めて言ひ給ふ「ヨハネの子」イエスあり。

聖書改譯原稿用紙

冊三

改(10)釋「バシラ」と稱へらるべし

イエス、加利ラヤン徒「かん」とし、ヒリおんあひて

冊四

給ふ「われに徒へ」ヒリおはアレゲレとペテロとの

冊五

町あるベサイカの人あり。ヒリお、ナタナエルに

「いつて言ふ」我らは「モーセが律法に録し」とある、預

言者たちが録し、所の者に遇へり、ヨセフの子ナザ

冊六

レのイエスあり」ナタナエル言ふ「ナザレより何の

善き者か」いづべし「ヒリお、來りて見よ」イエ

ス、ナタナエルの己が許にきたるを見、之を指して言

ひたまふ「視よ、これ眞にイスラエル人あり、その衣に

四六

虚偽リツボウよしナタナエル言ふい如何いにして我われを知り給たま

四五

かかイエス答へて言いひたまふい「ヒリホのあち咄よぶまへに我われがい樹きの下したに居をるを見みたりナ

四四

リナエン答ふこた「ラビ、あんぢは神かみの子こ子こり、咄あちはイスラエんの王わうあり」イエス答へて言いひ給たまふ「我われが

四三

無花果リライクの樹きの下したに居をるを見みたりと言いひしはよりて信しんあるか、咄あちままより更さらに大おほいふる事ことを見みんままた

言いひ給たまふ「まことと申まことす我われがい樹きの下したに居をるを見みたり、降くだりするを咄あちら見みるべし」

聖書改譯原稿用紙